

シニア世代が笑いを追求 日本笑い学会



落語、腹話術、ものまね... 技術磨いて披露

1994年に大阪で設立した「日本笑い学会」は、笑いの文化的な発展を目指して全国各地に支部を置いている。宮城を拠点とする東北支部と石巻支部のメンバーはシニア世代が中心。それぞれどのような活動をしているのか取材した。



日本笑い学会石巻支部

4月に石巻市内で開催した例会で笑顔を見せる来場者

設立は2006年。現在は、福(副)支部長の伏見不二雄さんが「日本笑い学会」に入会し、地元石巻でも「笑いを広めたい」と知人9人に呼び掛けて立ち上げた。当初から、現石巻市長の亀山紘さんが支部長を務める。現在は60代〜80代を中心に約60人が所属する。男女比はおおむね3対7で、石巻市やその近隣市町の在住者がほとんどだ。年に3、4回例会を開き、プロや会員による落語、ものまね、歌、マジックショーなどを楽しんでいる。4月の例会では石巻市内で講話やマジック

復興住宅にも笑い届ける

シヨウを行い、盛況だった。笑福仙人の芸名で歌手活動もしている伏見さんは「健康維持のためにも笑いが大切」と話す。「病気や認知症の予防のため」と参加を希望する人も多い」と言う。東日本大震災では津波被害が大きかった地域。その直後から役員が中心になって、避難所や仮設住宅で慰問活動を行った。震災から7年が過ぎた今は慰問活動を引き継ぐ形で、復興住宅で公演などを開催



マジックショーは地元のアマチュアによるものながら本格的

している。伏見さんは「復興住宅では孤立している方もいる。声掛けをして集まってもらい、笑いを届けている」と地域での役割を確かめる。随時会員を募集中。年会費は2000円で、例会の参加は無料。例会には非会員も参加でき、その場合1回500円。例会のスケジュールは問い合わせを。

DATA 問/事務局(飛翔閣内) TEL0225-95-2424

笑いの講師派遣

「日本笑い学会」誕生の2年後に結成し、11月で22周年を迎える。60・70代を中心に約90人が在籍。「自分に笑いの灯をともし、心身の幸せを見つけて出す」ことをモットーに、腹話術や漫談、歌唱、落語など、思い思いに笑いの技術を研究する。



日本笑い学会東北支部

腹話術を披露する支部長の千葉さん

日々磨いた笑いの技術は、年に数回仙台市内で開く「笑学校」や「笑い学研究会」で披露している。「久々に声を上げて笑った」と話す来場者は多い」とは事務局の坂本宏一さん。「笑学校は4月

で77回を数えた。積み重ねてきた実績が心から笑える雰囲気を生んでいると思つ」と続ける。この他に力を入れていのが、笑いの講師派遣事業。東北6県を対象エリアに、依頼のあった福祉施設や公民館などにメンバー数人を派遣し、笑いを届ける。どの会場も常に笑いに包まれるが、中にはなかなか笑わない人もいるそう。「その人に笑ってもらうには、どうすればいいか」。披露しただけで終わらない、笑いの追求がメンバーらのレベルアップにつながっている。「高齢になるにつれて笑わなくなるが、生活の質を上げるために最も簡



来場者を巻き込み笑いを楽しむ

単にできるのが笑つことと支部長の千葉俊一さん。「より多くの笑いを届けるよう、さらに修練し磨きをかけていきたい」と話す。随時会員を募集中。年会費は3500円。各種イベント時に申し込む事務局へ問い合わせを。

DATA 問/事務局(坂本) TEL022-386-3517